



地方独立行政法人

鳥取県産業技術センター

Tottori Institute of Industrial Technology

試験実施の  
お知らせ



Innovation  
Together

# 研究職員

企業の皆さまの研究室です。

# 募集

我々と一緒に、  
あなたの研究、技術、アイデアを、  
鳥取県の未来に活かしてみませんか。

## 令和8年4月採用 職員採用試験の予定

■募集分野・人数 **化学** (1名程度)

**機械・計測制御** (1名程度)

■受付期間 令和7年3月1日(土)～5月20日(火)

■第1次試験 令和7年6月7日(土)

■第2次試験 令和7年7月19日(土)

■最終合格発表 令和7年7月25日(金)

詳細・お問合せ 電話：0857-38-6200 / HP：<https://tiit.or.jp/>



# 鳥取県産業技術センターとは。

- 鳥取県産業技術センターは、平成19年4月に鳥取県が設立した地方独立行政法人(公務員型)の公設試験研究機関です。
- 採用された職員は、地方公務員法が適用される地方公務員となり、給料の額等は鳥取県職員の例によります。

## 拠点

### 電子・有機素材研究所

鳥取県鳥取市若葉台南七丁目1-1

電気電子、有機材料に関する「ものづくり技術」に係る技術支援や研究開発を行っています。

### 機械素材研究所

鳥取県米子市日下1247

機械・金属分野での素材から加工までの「ものづくり技術」に係る技術支援や研究開発を行っています。

### 食品開発研究所

鳥取県境港市中野町2032-3

農畜水産物の加工や機能性食品、発酵食品などの技術支援や研究開発を行っています。

## 業務内容

研究員の仕事は大きく分けると「支援業務」「研究開発業務」の2つ。  
自身の専門知見を活かし、県内企業の成長・発展に直接的に関わることができます。

### 支援業務

・技術相談 ・機器利用 ・依頼試験 ・技術人材の育成

### 研究開発業務

・新たな技術や製品開発など、県内企業のニーズに基づいてテーマを設定して研究開発  
・企業ごとの研究開発や、複数企業や大学等と連携したチームでの研究開発



## 現役研究員の声

**M 主任研究員**  
電子・有機素材研究所  
有機材料グループ  
2013年採用



### ■どんな仕事を担当していますか？

プラスチックの成形加工をメインに担当しています。新しい素材を使って希望通りに成形できるか、不良は出ないかといった企業からの相談に専用の機械を用いて対応します。

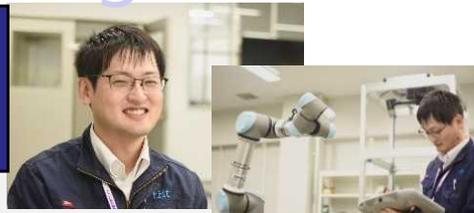
また、国・県ともに環境に配慮した材料の開発を進めていることから、リサイクルや天然素材を混ぜ、石油由来のプラスチックを減らす研究開発も行っています。企業の担当者を集まってもらう機会を設け、技術の普及を図っているところです。企業に使ってもらえる技術、研究成果をいかに生み出すかに挑戦していきたいです。

### ■鳥取県産業技術センターで働くことを決めた理由と働く魅力は？

プラスチックに関する専門性を活かせることや、自分が携わった技術やアイデアを世の中に出せる仕事がいいなど応募しました。現在携わっている、環境に配慮したプラスチックの研究には、修士課程で学んだプラスチックに稲藁などを混ぜる「複合化」の知見を活かすことができている。

他の研究機関の人と交流し先端研究の情報収集を行うなど、自らも向上しながら県内企業を支援できることにも魅力も感じます。

**T 研究員**  
機械素材研究所  
システム制御グループ  
2023年採用



### ■どんな仕事を担当していますか？

県内企業の生産現場の自動化の支援や、機器操作研修などの人材育成を行っています。企業の人手不足を解消するための自動化の相談を受けてサポートをしています。

実装に向けて企業の方と二人三脚で産業技術センター設備を活用した検証や生産現場で試しながら、現場にどのようにロボットを導入するか取り組んでいます。今まで学んだことを活かしながら自分の強みを伸ばし、そして多くの企業のサポートをしていくため、日々仕事に向き合っています。

### ■鳥取県産業技術センターで働くことを決めた理由と働く魅力は？

県外企業に就職しましたが、100周年で新聞に取り上げられていた鳥取県産業技術センターを知り、全国的にも珍しいロボットハブがあることにも興味を持ったので採用試験に応募しました。相談に始まり実際に企業の現場に行ったり実験したりと様々な業務に携わっています。このように、担当する範囲が広く、先輩に相談しながらも、常に自分で考えながら主体的に仕事ができる点が大きな魅力だと感じています。

また、年齢が離れていてもどの人にも気軽に相談することができたり、働きやすい環境であることも魅力のひとつです。

# Innovation Together